

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675300141
法人名	医療法人 健育会
事業所名	つどいの家
所在地	鹿児島県始良市鍋倉224番地1 電話 0995-66-3533
自己評価作成日	平成23年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・毎月の努力目標を定め、毎日唱和し入居者が安心した生活を送れるような取り組みををしている。
- ・玄関先に四季折々の花を植え、季節の移り変わりを感じて頂いている。畑には野菜を作り、成長、収穫の喜びを味わっていただいている。
- ・可能な限り「軒下から一步外に」を目指して外気浴、外出の支援を行い精神面の安定を図っている。
- ・母体が医療法人のため、健康面においても連携が取れ、ご家族にも安心して頂いている。
- ・ホームの目の前に保育園があり、子供たちの笑い声や元気よく走る姿等身近に感じたり、園の運動会、音楽会にも参加し、交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

- ・母体が医療機関のため、同機関の医師がほぼ毎日、個別の往診をしたり、利用者の緊急時への対応などの体制ができており、利用者や家族にとって安心できる環境である。
- ・家族へアンケート実施し思いや要望などを把握したり、毎月、個別に利用者の近況報告を写真入りで郵送するなど、家族とのつながりを大切にされており、家族からも評価されている。
- ・管理者と職員は気軽に意見を言いやすい関係が築かれており、意見や提案が支援に活かされている。

【事業所の工夫点】

- ・地域との交流は、中学校の職場体験の受け入れや保育園との交流を実施しており、自治会の行事にも参加したり、防災訓練では地域住民の参加があり、地域の理解や支援を得るための努力をしている。
- ・菜園では野菜など栽培し季節の食材を取り入れた献立を工夫している。また調理にも気を配っており、食事が利用者の楽しみとなるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホール内に理念を掲示し、朝、夕の申し送り時に唱和し全職員が共有し、実践されているか確認し合っている。	理念は事業所内に掲示したり、パンフレットにも掲載してある。理念を共有した毎月のケア目標を掲げ、ユニットごとに実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方の出席をお願いし情報等を共有している。防災訓練等を、近隣住民と合同で行っている。中学生体験学習生を受け、地域との関係を保っている。	自治会に加入し講習会を一緒に行ったり、防災訓練にも地域住民が参加している。中学校の職場体験を受け入れたり、保育園や施設の子供達がホームの行事に参加したりして、地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議での認知症の勉強会の実施。認知症サポーターの育成にも協力している。救命救急の講習に近隣の方々に呼びかけ一緒に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者への外部評価の報告。地域から情報を得たり、委員との関わりの中で、地域との繋がりを気づいて、サービスに活かしている。運営推進委員会の会議録はミーティング等で報告している。	運営推進会議に家族・民生委員・自治会長・老人会役員・市担当者・病院職員等が出席し定期的に開催している。ホームの活動内容等を報告し意見交換を行っている。外部評価の結果についても報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議参加していただき、取り組み等を伝え助言を得ている。 キャラバンメイトの研修の受け入れも行政担当者と協力実行している。	毎月1回は、役所に出向き生活保護受給状況等の報告をしている。 必要に応じて、市担当課への相談や情報交換を行っており、キャラバンメイトの研修や認知症の相談も受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中鍵を掛けない為のケアとして、玄関を出ようとされる方には、散歩したり話をしたりして、気分転換を試みる。言葉等の目に見えない拘束をしないケアを心掛けている。	身体拘束をしないケアについて、事業所の方針を入居時に家族に説明している。勉強会等で話し合い、利用者が自由な環境で安全に生活ができるように取り組んでいる。日中は鍵をかけないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、全職員が身体・言葉での虐待がないケアに努めている。 日々のケアの中で職員同志声かけあって徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市町村の講習会に参加したり、ホーム内勉強会を実施して制度の理解活動に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には事業所の運営理念や説明を行っている。 特に退所に関する取り決めについては不安、疑問点がないように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	行事等、家族の皆さんが集まる機会を設けて、家族の方との会話をしている。推進委員会への参加を呼び掛け要望や意見を尋ねて検討して迅速に対応しケアに活かせるように努めている。ご家族へのアンケートの実施等にて要望を把握する。	利用者からは、日々の生活の中で意見や要望を聞いている。敬老会や夏祭り等への家族の参加が多く、行事後の「家族との語る会」で意見や要望を聞いている。家族へのアンケートも実施している。面会時の家族との会話で、大事なことは記録し職員が共有できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝、夕の申し送り時、ミーティング等での職員の意見が反映されるように心がけている。 月一回の法人の全体会議で提案や意見の場を設けている。	毎月のミーティングや朝夕の申し送り時に職員の意見等を聞いている。法人全体の会議も毎月開催し代表者・管理者が参加し職員からの運営に関する意見等を聞いている。管理者は職員の意見や要望を聞くように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与面では、個々の能力、資格等を配慮している。 個人の希望に応じた雇用形態を取り入れている。 代表者との懇談、面談の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に行われる法人内の研修に参加している。</p> <p>新人研修やホーム内勉強会の実施。</p> <p>研修報告をミーティング時に行い全職員が認識する。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区協議会に加入し研修等で交流の場を持っている。問題点や課題について地域の施設の方と電話連絡や訪問して情報の交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ面談の回数を持ち、生活歴や要望等を知り、傾聴し、安心していただけるような工夫を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いを傾聴し、ホームの役割等を説明し、双方にとって今何が必要か、安心した生活ができるか、共に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、連絡等は本人や家族の思いを傾聴し、必要時は居宅事業所や他のサービス機関への照会、相談等により、その時点で必要とされるケアプランを作成し、寄り添ったケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる力を引き出し、負担にならないように見極め、楽しい暮らしが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態を報告し、現状を把握していただいたり、行事等に参加していただく事で、本人との関係を築いていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院を利用するためにご家族と出かけたり、親戚、友人には、便り、電話等にて関係を継続するようにしている。	地元出身の利用者が多く、知人や友人の訪問があり、関係を継続できるように支援している。馴染みの美容室に行く等、外出は家族と協力して希望に添えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や生活歴を把握し、利用者同志が良い関係を築くように努めている。 健康体操や歌ねゲーム等一緒に楽しみを共感出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時候の挨拶や電話をかけたりして関係を築いている。 他の事業所に移られても面会に出向いたり、家族からの相談等に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴、レク、日常会話の中で本人の思いを見出し、職員間で把握検討している。 想いを言葉で表せない方には動作や表情で察するように努めている。	入居時に利用者の思いや希望を聞き、困難な場合には家族から情報を得ている。日常会話の中で思いや意向を把握し、申し送り時などで利用者一人ひとりについて話し合い、情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から聴き得た生活歴や日常会話の中から情報を拾い、その人らしい暮らしが出来るように全職員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力、生活パターンを把握し、出来る事、役割を見出しケアに結びつけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に合わせて、その都度本人や家族の要望や意見を取り入れながら、主治医・看護師の意見を参考にミーティング等で話し合い検討し、介護計画を作成している。	モニタリングでは家族からの意見や要望を聞き介護計画に反映している。また主治医等の意見や利用者の毎日の暮らしぶりをもとにミーティング等で話し合い毎月それぞれの利用者の身近な課題を決め介護計画を作成している。介護計画の見直しは3ヶ月毎であるが、状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人別に記録し、身体状況から日常生活での様子等記録し、申し送り等で全員が共有し計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の生活の継続性と家族の要望を踏まえて、通院介助・外泊・買い物等の要望支援。往診、医療連携等入居者にとっての生活の継続性の支援。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事(音楽会・サロン・七夕祭り)に出向き、地域の方との触れ合う機会を設けている。移動図書や移動パン屋の利用。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援する。協力病院も定め適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>希望のかかりつけ医への支援体制を整えている。通院は家族の協力をもらいながら職員が対応している。現在、協力医療機関の医師がほぼ毎日、個別の往診にきており、利用者や家族にとっても安心できる環境である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との契約による看護師に来所して頂き、入居者の状態全般について相談している。緊急時にはその都度連絡、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供して、医療機関とも連絡を密にとり早期の退院や本人の混乱をなるべく少なくするように努めている。家族とも連絡を密にとり、職員も出来るだけ御見舞等に訪問し励まし、ダメージの軽減に努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族との話し合いのもと入居時に確認している。その時々状態に応じて、ご家族と主治医を交えて再度意志確認を行っている。	重度化や終末期に向けた対応については、入居時に事業所の指針を説明し同意書を得ている。指針をもとに家族と話し合い、主治医と連携して支援する方針を、全職員が共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し救命救急の研修やホーム内勉強会を実施している。急変時のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防立会いの下、地域の方の協力を得ながら、昼夜を想定した避難訓練を定期的実施している。災害(地震・台風・地滑り)の対応も行政の指導、協力等話し合っている。</p>	<p>防災訓練は年2回消防署の指導のもと昼夜間想定で実施しており、地域住民も参加している。消火器の使い方の訓練や消防設備の定期点検も実施し、スプリンクラーも設置している。非常用の食料や水の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の声掛けは、声の大きさや難聴の方には、文字を表す等の工夫をする。やむを得ず、PWトイレを居室に置く場合は、布等でカバーし、見た目の配慮を行う。居室に入室する際は、ノック、声かけを実施する。	入職時に、利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について説明しており、新人教育には特に力を入れている。日頃から利用者に対して配慮した声かけなど、個人を尊重したケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を尋ねる際は、自分で選択できるように声かけの工夫を行い、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において、可能な限り無理強いしないで、一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。(食事時間、入浴時間)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に理容をホームに来て頂いている。行事等時は、化粧などして楽しんで頂いている。衣類は本人と一緒に選び、必要に応じて声かけ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立を立て、職員と入居者が同じメニューを同じテーブルで、言葉を交わしながら食事をしている。嚥下が困難な方には、食事形態の工夫をする。	献立も利用者の希望を聞き、旬の食材を使用している。庭の菜園で収穫した野菜を使うこともあり、盛りつけや彩りも大事にしている。利用者も下ごしらえなど手伝っており、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	一日の水分摂取量を記録し好みの 飲み物(ジュース・コーヒー) を提供することで不足を防止す る。一日の食事量を記録して、 一人ひとりにあつた食事形態に 配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時の見守り、 一部介助、入居者の状態に合わ せたケアを行っている。 入れ歯は、夜間、洗浄し清潔を 保っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや時間帯で の誘導、声かけを行っている。 夜間帯と日中はオムツ等を外し たりして工夫している。失敗に 対しては自尊心や羞恥心を考慮 してさり気なく支援している。	排泄チェック表を作成しており、 利用者一人ひとりの排泄パター ンを把握している。日中はオムツ等 をせず適時に声かけをし、トイレ 誘導を行っている。また、できる だけおむつをしないで、排泄の自 立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をつけて把握し ている。水分・野菜をしっかり 摂取することの大切さを説明、 理解して頂いている。予防のた めに乳製品や繊維質の食材がと れる献立の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴前に、バイタルチェックを行い、体調管理には十分配慮している。 菖蒲湯・ゆず湯などで入浴を楽しんでもらう。	入浴は週に3回のペースで、入浴時間など利用者の希望を尊重している。くつろいだ気分で入浴できるように菖蒲湯やゆず湯など、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床まではTVを見たり、本を読んだりしてくつろいで頂く。 気持ちよく眠れるように、下肢upや体位交換など個々に応じた支援をしている。。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の整理、仕分けを行ったり、処方の変更があった場合は申し送り時に全職員が把握できるように努めている。服薬担当を定め、誤薬防止のために、声だし与薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作り、裁縫など生活歴を活かして役割や外出の支援や移動図書、移動バンを利用し、生きがいのある生活が送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、ドライブ等出来るだけ入居者の要望に応じている。 (花見・ショッピング、お墓参り、自宅訪問等は家族の参加協力を頂いている)	天気の良い日は、毎日のように近隣を散歩したり、希望に応じてショッピング等に出かけている。墓参りや自宅訪問は、家族の協力をもらっている。花見などの行事では、歩行困難な利用者もリフト車を利用して外出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物を出かけた際に、本人に買いたい物を選んで頂き、精算して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>遠方の家族等にお祝時に電話や手紙を書いて関係の継続に努めている。本人の要望時はその都度対応する。贈り物が届いたときは必ず連絡をして会話して頂く。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が自分の力で過ごせるように必要な場所には手摺等を取り付けている。食卓に草花を飾り季節感を感じて頂く。壁画も入居者と職員が一緒になって季節の飾り付けや手工芸に取り組んでいる。</p>	<p>玄関先には季節の花が植えてあり、入り口も作品等がきれいに飾ってある。ホールは天井も高くゆったりとした広さで、間接照明や温度調整・風・光・においにも気を配り過ごしやすい場所となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間がTVを見たり、談話を楽しんだり、読書をしたりして思い思いに、くつろぐ場所になっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人、ご家族に入居時に、使い慣れた品物を出来るだけ試算して頂けるように声かけを行う。入居後も必要に応じてお願いしている。(テーブル・仏壇等)</p>	<p>居室は洋室でベッドと整理ダンス、テーブルと椅子が備え付けられている。また、本人の使い慣れた家具等が置いてある。仏壇や家族の写真等が飾ってある居室もあり、安心して暮らせる配慮をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>生活経路は整理整頓して、要所に手すりを設置し自立と安全面から配慮し、環境整備に努めている。</p> <p>トイレ・居室は目印で本人が場所の確認が出来るように工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない